



板橋区景観賞
受賞

板五米店

「時代をつなぐ往古と未来の共存」

板五米店は、大正時代に建築され、「田中米店」から「板五食料販売所」、「板五米店」と改称され現在に至る。現在は仲宿商店街の空家対策事業の一環として、飲食業が営まれている。

板五米店は、区の有形文化財にも指定されており、中山道の街道に面して立地する町家の系譜を引いた、道路側に下屋庇（げや・ひさし）をもつ土蔵造町家であり、店舗部分と住居部分で構成されている。全体的に近世町家に煉瓦の袖卯建（そでうだつ）を配しており、和風建築に洋風の意匠（いしょう）が加味された、近代の息吹を感じさせる建造物である。

旧中山道の往時の景観を存続させている貴重な建物であり、地域に残る景観資源を生きた景観まちづくりの拠点として活用している。

かつての米穀商の歴史を継承し、おにぎりをメインメニューとしたり、歴史的な日除け幕とモダンなロゴデザインを組み合わせるなど、歴史と現代のマッチングなど、景観に配慮しつつも、商店を維持するために新たな活用方法やデザイン提案を行っており、今後の景観まちづくりの指針としての貴重な取り組みを行っている。